

暮らし 福祉 いちばんの道政へ 今年も全力投球



地域から病院をなくさないで！



宮川 潤 道議

道内で1万床もの病床削減が示され、地域ごとに計画の具体化を迫られている地域医療構想。「わが町から病院がなくなるのでは？」と不安の声が上がっています。

宮川潤道議は、医療団体との定期的な懇談会や日高管内の医療調査を行い、第3回定例会代表質問を取り上げました。「地域医療構想で無理やりベッドを減らさなくても、医師・看護師不足により既に病床休廃止が相次いでおり、医療崩壊の危機にある」と、地域から寄せられた切実な実態を告発。「機械的に病床を減らせば、地域医療の崩壊に拍車をかけるものとなる」と指摘し、知事の姿勢をただしました。

中小企業支援・橋の老朽化対策に「予算確保する」と知事答弁



知事へ来年度予算要望を行う道議団（要請書を受け取る辻副知事）

高齢化・後継者不在が深刻となっている中小企業への道予算が減少し続けていると指摘した真下紀子道議は、小規模企業の厳しい経営環境を踏まえた施策の充実を求めました。知事は「予算の確保も含め施策の推進を図り、事業承継の促進に努める」と答弁しました。

道内の橋梁の老朽化が進み、築50年超の橋は10年後には約3割となり、現在でも58の橋が通行止めです。道路整備予算の減少を指摘した質問に、知事は「必要な予算確保に努める」と答えました。

道民の願いを届けて まっすぐに、ひたむきに

帯広養護学校調査
雨漏り対策を急いで！



真下紀子・佐野弘美両道議は、雨漏りや狭隘化が深刻な帯広養護学校を視察。全道でも19校から雨漏りの修繕要望が出ているのに放置されている実態も明らかとなり、道教委は応急対策を約束しました。

政府交渉
大きくなった地方議員団
で政府へ要請



日本共産党道議団、各地の地方議員が道内各地の切実な要望を届けて各省庁と交渉を行いました。

バイオマス施設視察
再生可能エネルギーが活きる北海道に



美深町にある木質バイオマス施設を道議団全員で視察。北海道の自然環境を生かして再生エネルギーを生み出す自治体の努力を学びました。

自治体独自で行っている再生可能エネルギー活用事業をさらに広げ、原発がなくても電力は賄える北海道へ、引き続き全力を尽くします。

TPP反対と言えない高橋知事

道内の市町村長のうち TPP 反対と表明したのは約8割にものぼっています。北海道農業・酪農畜産業をはじめ、食の安全などへの甚大なる悪影響が懸念されるためです。しかし、高橋知事は「回答できない」と態度を明らかにしませんでした。TPP が道内に及ぼす影響についても「政府の対策に道の要望は概ね盛り込まれた」と、政府の対応にべったりの姿勢が浮き彫りになりました。

佐野弘美道議は「知事は意欲ある扱い手が夢と希望を持てるようにと言うが、その扱い手から夢も希望も奪おうとしているのが TPP ではないのか」と厳しく追及。北海道を代表する知事として、TPP にきっぱり反対することを強く求めました。



佐野弘美 道議

道民の願い届ける意見書可決



第三回定例会で、日本共産党道議団が原案を示した「子どもの医療費助成の制度化を国に求める意見書」が、第4回定例会では「診療報酬を引き下げず、地域医療を守ることを求める意見書」「子ども医療費助成に係る国保の国庫負担金減額調整措置の廃止を求める意見書」が、いずれも全会一致で可決されました。

一方、TPPからの撤退を求める意見書には共産党のみが賛成。大筋合意前提の政府の対策実行を求める意見書には、共産党以外の自民・民主・結志・公明が賛成。大筋合意で不安を感じている多くの道民の声に背を向けました。

第3回・第4回定例道議会での各会派の主な意見書態度

	共産	自民	民主	結志	公明
子どもの医療費助成の制度化を国に求める意見書	○	○	○	○	○
診療報酬を引き下げず、地域医療を守ることを求める意見書	○	○	○	○	○
子ども医療費助成に係る国保の国庫負担金減額調整措置の廃止を求める意見書	○	○	○	○	○
TPPからの撤退を求める意見書	○	×	×	×	×
TPP協定に関し合意内容の丁寧な説明と対策の確実な実行を求める意見書	×	○	○	○	○

道警の相次ぐ不祥事への対策求める

道内各地で警察官による悪質な不祥事が発生しています。菊地葉子道議は総務委員会で、過去5年間で130人の懲戒処分が行われていたことを明らかにしました。

佐野弘美道議の一般質問で、実際には交通違反をしていないのに事件をでっちあげ、虚偽の調書を作成していた問題を取り上げ「警察官としてあるまじき不祥事が生じていることは極めて深刻な事態だ」と指摘。道民の不信の声を重く受け止め、再発防止に向けて全力で取り組むよう求めました。



菊地葉子 道議

道政懇談会 道民の願いを受け論戦に生かす



定例会ごとに行われる「道政懇談会」で、各界の道民の方々からご意見を伺い、道議会の論戦の中身をわかりやすく伝えました。

「子どもの貧困」一刻も早く実態をつかんで！

子どもの貧困が深刻な社会問題となっています。道内の子ども人口約63万人中、福祉制度の対象となっている約9万人を含め、経済的困窮状態の子どもは10万人を超えると言われます。しかし、道の対策では何ら新たな施策は示されていません。

真下紀子道議は、貧困の具体的な事例をつかもうとしない道の姿勢をただし、リアルな実態を把握するよう求めました。また、道の計画の中で「恵まれない養育環境」という言葉は見直すよう求め、計画から削除されました。



真下紀子 道議

道民のための道政へ 提案 前進



ました
のりこ
真下 紀子
北海道議会議員

はつらつ道政レポート

「教科免許のある先生を増やして！」

中学 1177、高校 197 の「免許外」許可

北海道は小規模校が多く、道教委は、教員配置数が必要な教科数に満たない場合、専門の教科免許を持たなくても授業ができる「免許外許可」を出しています。免許外許可数は公立中学校で1177件、公立高等学校で197件と全国でも断トツに多く、児童生徒が専門教科免許を持った先生から授業を受けられない事態が大規模かつ長期に続いている。教科免許のある先生の授業をうけられない実態を示して、国の教員定数改善と解消のための道教委としてのとりくみを強く求めました。

雇用 計画

最低賃金引き上げ 産休育休とりやすくして！

道内では約 96 万人が非正規雇用です。正規雇用の促進とともに、最低賃金引き上げ、産休・育休の取得、高齢者や就職氷河期の方たちへの支援を求めました。道は次期雇用創出計画に盛り込み、実効ある対策をとると答えました。



再生 エネ

促進のために

11月 25 日の産炭・エネ特別委員会で、省エネ・節電と再生可能エネルギーの導入目標、原発との整合などについて質問。再生可能エネルギーの飛躍的導入のために、維持費と冷却費用を年間 812 億円も費やす泊原発の廃炉の決断と送電網整備の促進を求めました。



道議会 改築

再生可能エネルギー活用を！

12月 10 日、道議会庁舎改築の基本計画案（総予算 111 億円）を知事に提出しました。日本共産党が提案した再生可能エネルギーの活用も「ゼロエネルギービル」の検討として盛り込まれました。



くい打ち 偽装

安心の検査体制求める

旭化成建材によるくい打ちデータ偽装が建築物の安全を脅かす重大問題となりました。データ流用が判明した新篠津高等養護学校を視察しました。道は建物の安全確認と全容解明のために「安全検証員会」を立ち上げ、年内にボーリング調査を実施。安全確保のため検査体制の整備を求めました。



ご意見・ご要望をお寄せください

HP: [真下 紀子](#)

検索

ブログ: 笑顔ときどきウルトラマン

f 真下 紀子